

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所・小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	医療法人社団 滋恒会 グループホームなかじま	評価実施年月日	平成22年3月1日
評価実施構成員氏名			
記録者氏名		記録年月日	平成22年3月10日

北海道

は外部評価項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
1 ○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	この地域の中で暮らしてきた方々が、これからもそれを続けていっている実感が持てるような理念を掲げています。		
2 ○理念の共有と日々の取組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	中島内科及び他医療機関等の関係機関と密接に連携し、当ホーム理念である“医療と介護の連携”“尊厳を守り明るく安心した生活を送っていただく”が、より達成できるよう努めています。管理者・介護スタッフは、毎月一回全体会議を行い理念や運営方針に付いて具体的に話し合っています。		
3 ○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	運営推進委員会を2ヶ月に1回、地域の方達も交えての行なっており、暮らしの様子を知って頂くために、近隣の人たちにホームの内容・様子「暮らしのお便り」を回覧板にして公開しています。		
2. 地域との支えあい			
4 ○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	グループホームの立地が商店街である為、入居者と一緒に買い物に行ったり、畑・ガーデニング等を行い、近隣の住民の方が気軽に声をかけたり、付き合いができる様に努めている。	○	“地域住民に支えられている”ということをおぼろげに忘れることなく、地域住民一人ひとりに対するコミュニケーションを大切にする事を続けていきます。
5 ○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	地域区会行事や総会への参加、また当ホーム主催行事である“清涼盆踊り”などに地域住民に参加していただくなど、今後も交流を深める機会を大切にしています。又、地域のイベント(区会新年会、パークゴルフ大会等)に積極的に参加しています。	○	地域の行事に参加したり、ホームでの行事をお手伝い参加していただく交流が、事業所としてではなく、入居者が意欲的に参加できるか、その可能性を模索し、入居者個人単位で地域と関わりが持てるよう働きかけていきたいです。
6 ○事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	認知症を理解していただける様、介護員が研修に行きキャラバンメイトになり、地域の方達に広める活動をしています。	○	講演や寸劇等を通し、地域の方々に認知症を正しく理解していただけるよう、これからも活動を続けていきます。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p> <p>過去の評価で反省する点を改善してきました。外部評価を受ける事で積極的に取り組む様努めている。</p>	○	<p>スタッフ各々が、自己評価の意味を理解し、皆で協力し、より積極的に取り組めるよう努めていきたい</p>
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p> <p>2ヶ月に1回運営推進委員会議に協力し意見を聞き、地域の行事にも参加し、地域の人達のかかわりをもって頂ける様にしている。</p>	○	<p>これからも、事業所側の都合や価値観を押し付けることなく、近隣住民やご家族の意見やアドバイスを真摯に受け止め、よりよいケアに反映できるよう努めていきたい</p>
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p> <p>運営推進委員メンバーに市町村担当者も加わっていますので、必要に応じて取っています。</p>		
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p> <p>成年後見制度1名の方の手續に関わってきました。(関係機関と相談しました)</p>	○	<p>権利擁護制度について、全職員が研修の機会を持ち、理解を深める努力をしたいと思っています。</p>
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p> <p>管理者が研修した内容を職員会議で報告、職員間で情報・倫理観を共有することが多かった。</p>	○	<p>今後も、他の職員も積極的に外部研修に参加し、ご家族や関係者の意見を受け止め、虐待防止に努めていきたい</p>
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p> <p>契約時、家族本人に十分に説明し理解していただき納得しています。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
13 ○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	いつも入居者とコミュニケーションをとり体調の変化、言葉に表せずにいる人については表情心の変化をくみとり、訴え苦情についてすぐ改善したり、ミーティング等に報告している。	○	利用者の言葉をそのまま鵜呑みにせず、その言葉の持つ意味(言いづらいついとか遠慮)を、利用者目線で正しく捉え、その人にとって、また全体にとってより良いものとなるようこれからも努めていきたい
14 ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	連絡事項については「暮らしのお便り」の中に詳しく暮らしぶりを報告し、急ぎの場合電話連絡している。又、「暮らしのお便り」とは別に報告用紙を設け、各家族に入居者の暮らしぶり等を個別に報告している		
15 ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族の来所時に必ず声をかけ、意見を聞き、帰り際に本人より意見、不満はないかなどゆっくりとした場所を設け、家族ともなじみの関係を作っています。玄関に意見箱を設置しています。		
16 ○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	日頃から職員との意見交流の場を設けています。全体に意見を聞く場合は1ヶ月に1回の全体ミーティングに交流しています。		
17 ○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	勤務体制は入居者の状況に対応し、早朝・日勤・遅番を調節し、いつでも必要な体制がとれる様にしています。休日の出勤になる事もありますが、後日休日をとりもらうなど対応しています。		
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	職員の働きやすい勤務体制にし、休日の希望を聞くなど環境作りをしています。精神的安定を図り、離職は最小限にしています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p> <p>実践者研修、その他の研修など積極的に参加出来る様にしています。</p>	○	<p>実践者研修には、必ず一人以上参加するよう計画し、全体ミーティングで研修報告を伝え参加を促していきたい。</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p> <p>運営推進委員のメンバーに地域包括支援センターより意見を聞いたり、行事等に近隣のグループホームの入居者と交流を実施しています。また、余市グループホーム連絡協議会が主催する勉強会等にスタッフ全員が積極的に参加できるよう努めている</p>	○	<p>同業者との横の繋がりをより強いものにし、モチベーションが向上するようお互い刺激し合いたい</p>
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p> <p>悩みを持つスタッフ間で親睦会でストレス解消を図り、時には管理者が悩みの聞き取りをして解消を図っています。</p>	○	<p>スタッフ間のコミュニケーションを、今よりもっと意義のあるものとし、お互い励まし合い支え合える関係を築けるように取り組んでいきたい</p>
22	<p>○向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p> <p>研修した職員より、全体ミーティングで発表しすぐ取り入れられる物を検討し、職員全体が向上心を持ってもらう様に努めている。</p>	○	<p>現状に満足してはいけません。介護にこれで良いという終わりはありません。常に、もっと何かできないか検討したい。</p>
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p> <p>入居前に本人、又は家族にグループホームを見学に来ていただき希望を聞き、入居時本人からも生活歴を詳しく聞き不安なく生活できる環境に努めています。他の入居者とのパイプ役となり、早く他の入居者と馴染み、楽しく安心した生活を送れるよう、環境作りをしています。</p>		
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p> <p>何でも気軽に話していただける様な、姿勢・態度・雰囲気を作っています。</p>	○	<p>事業所やスタッフに対して意見や要望を、遠慮しないで言えるような信頼関係を築いていきたい</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
25 ○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入居時に必ず本人、家族との面談を行い、担当者を含めた職員で検討するようにしている。		
26 ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	ご家族の許す限りホームへ足を運んでいいただき、ホームの雰囲気、環境、入居者、職員とも馴染みの関係が出来るようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	一緒に生活する事で先輩から色々なことを学び、教わるなかで支えあう関係作りができてゆき、楽しい時間を共有する事でお互いの思いを感じていける努力をしています。	○	利用者と職員という関係を出来るだけ意識させないような関わりを目指したい。お年寄りが本音を出せるよう、言葉以外の表情や行動に気を配り、本人が望む時間の過ごし方を提供していきたい
28 ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	職員の年齢に幅がある事、入居者と同郷のスタッフが多い為、昔の話をして頂いても話が通じる良さがあります。	○	今後も、ご家族とのコミュニケーションをより密にしていきたい。狭い地域での関わりであることを忘れず、スタッフ一人ひとりの個性を活かし、円滑かつ有意義な介護サービスに結びつけたい
29 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	家族への思いが見られたときには、必要に応じて状況を報告、来訪に来たときは、ゆっくりと本人も含めできるだけ対応がとれるよう相談を行っています。		
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	入居されたことで、これまでの人間関係や場所とのかかわりが、どうしても希薄になってしまうが、来ていただいたり連れて行ったり出来る限り支援している。	○	どこまでできるのかをご本人や家族と模索して、出来る限り、支援したい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	人の和に入るのが苦手な入居者や仲良しの入居者同士が、スタッフを通じて日常生活の作業の中で一緒に出来る場面を作ったり助け合う機会をもうけています。入居者一人ひとりの出来ること・出来ないこと、好きなこと・嫌なこと、その時の気分などをスタッフが把握し、環境を整えることで、共同生活を送っていただいています。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	ホーム側から連絡する事はしていませんが、会う機会、来訪した際には、必ず声かけて状況を確認するようにしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	一人ひとりの話しを聞く機会を多く持ち入居者が何を望み何を訴えたいかなど常に考える姿勢をとっています。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	本人、又は家族から生活歴、馴染みの暮らしについて話しを聞き、記録に残しスタッフ全員が周知できる様にしています。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	一緒に作業する事で多方面から見る事に努め、記録に残し、他の職員たちとも話し合うようにしています。	○	その言動が、本人が本当に望んでいることなのかどうかを職員・ご家族などと考察し、他のあらゆる可能性についてこれからも検討していきたい
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	入居時に生活歴、身体状況を本人、家族から聞き取りし担当者とサブ担当者を決め、家族の意見も含めてアセスメントし介護計画を作成している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37	<p>○現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。</p>	○	再アセスメント後、本人、家族にも内容を説明し、理解、確認して頂くよう努めていく。新たなケアプランに対しての意見や要望も聞き取り、スタッフと家族が共にケアに関わる環境作りに努めたい
38	<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39	<p>○事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。</p>	○	職員の意識も高め業務見直し、小さな要望に応じられる様に心掛けていきたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40	<p>○地域資源との協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。</p>	○	ボランティアなどの外部から訪問していただけるよう努めてきたい。また、当ホーム入居者が地域の行事に参加するなど、環境を整えていきたい
41	<p>○他のサービスの活用支援</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。</p>		
42	<p>○地域包括支援センターとの協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援をしている。	事業母体が医療法人ですので此のことが最大の利点です。また、必要に応じて他の専門医を紹介し、ご本人の納得のもと適切な医療が提供されるよう努めています。		
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	週一回往診にDr来訪します。職員は詳しく身体状況を説明し、必要に応じて他の病院受診も行っています。		
45 ○看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	事業母体が医療法人ですので、週一回往診時Drより指示・依頼がある場合は看護師と相談し来訪に来てもらうなど、健康管理も聞き入れながら行っています。		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	スタッフは利用者が入院した時は、出来る限り頻繁に面会に行き、身体状況や状態変化を医師と確認したり、話し合いをし、出来るだけ早期退院が出来るように医療機関との調整、ご家族との連絡を行っている。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	医師、家族、職員とも連携を図ったうえで全員で方針を共有している。	○	各入居者の終末期の在り方について、スタッフ・家族・本人を具体的に話し合い、より良いものになるようにしたい
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	医師の指示の下で家族とも相談しながら、その方が安心してその人らしく生活出来るようスタッフ全員で話し合い支援していけるよう努めている。	○	入居者の日々の変化を的確に捉え、家族や関係者と話し合い、その人が最期までその人らしく生活できるように支援していきたい

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
<p>49 ○住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>本人家族から生活習慣を聞き取りし、居室に馴染みの物を持ってきて頂き、自分らしく安心できる空間になるよう考慮している。</p>		
<p>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p>			
<p>1. その人らしい暮らしの支援</p>			
<p>(1)一人ひとりの尊重</p>			
<p>50 ○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>1名程生活習慣、咳、息切れなど身体状態によって少し外れた場所での食事を希望され配慮しています。本人のプライバシーを損ねる事のない様、トイレにパッド類設置し本人が恥ずかしい思いせず生活出来る様にしている。</p>	○	<p>スタッフと入居者との関係が長くなるにつれ、態度や言葉遣いが雑にならないよう気をつけたい。人生の大先輩である、ということを忘れず、失礼の無いよう気を配っていきたい</p>
<p>51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>本人、家族より生活歴や色々情報を得たりしてその人がしたいという生活を見つけ出すよう努めている。</p>		
<p>52 ○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>共同生活の中でも、昔からの習慣を続けて頂けるよう、その人に合った時間の過ごし方をして頂けるよう支援をしている。</p>	○	<p>入居者一人ひとりによって違う時間の流れ方を把握し、皆で過ごす共同の時間と、趣味などに没頭する一人の時間、その両方を大切にしたい</p>
<p>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
<p>53 ○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>本人が季節や気温に合った服装を選択できるようお手伝いしたり、入居前より利用している理容室、美容院があれば利用を支援し、利用できない方はホームにて支援を行っています。</p>		
<p>54 ○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>直接調理に参加できなくても、味付けの仕方を尋ねたり、味見をするなど、一緒に作っている、という雰囲気作りを大切にしています。スタッフも同じテーブルで同じ物を食べているために、食べこぼしが見られた際にはさり気なくサポートしている。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	一人ひとりの嗜好品を把握している。 糖尿病や高脂血症などといった持病を持った方もいるので、嗜好を否定することなく、気分を壊さぬように医師・看護師と相談しつつ、さり気なくサポートしていきたい。		
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	それぞれに合った下着やパッドの使用、日々の排泄状況の記録を利用し声掛け誘導を行っている。 失禁してしまったときは、本人の自尊心を傷つけぬよう、細心の注意を払っています。 状況に応じて、男性スタッフ・女性スタッフを入れ替えるなど臨機応変な対応をしています。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	入浴拒否をする方に、いかに快く入浴していただけるかが課題。本人にとって苦痛となるので、無理強いにはしていないが、衛生上の問題もあり、スタッフ間の苦悩の一つとなっている。	○	言葉のかけ方で入浴してくれることがあるので、スタッフ間で情報を共有し、様々な可能性を一つひとつ実践していきたい。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	日中の外出やテレビを見たり、談笑したりと生活リズムを整え夜間には体を休めて頂けるよう努め、睡眠状態の変化にもその都度支援していく体制作りを行っています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	家事、畑など生活経験を配慮しながら得意分野や楽しみ、役割、活躍できる場面を見出すよう配慮している。	○	役割を見出すことに自信がない方には、さり気なくサポートしていきたい。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	入居者一人ひとりの希望に応じて自己管理を行ったり、事務所にて管理を行い必要に応じて支払いを行っている。管理不十分な方でも買い物に行かれスタッフ付き添いにて買い物をしている。	○	金銭感覚を忘れぬよう、出来る限り自分で支払いをして頂くなど、サポートしていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
61	<p>○日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。</p> <p>春から秋にかけて毎月外出の計画をし家族、入居者、スタッフが交流できる機会を作っている。その日の希望と身体状況を見ながら戸外に出る機会を多く取り積極的に支援している。</p>	○	<p>本人の体調や精神状態を把握し、決して無理強いしないよう支援を続けていきたい。</p>
62	<p>○普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。</p> <p>可能な限り外出希望がある場合、スタッフ人数等も考慮し機会を作って支援している。</p>	○	<p>家族にも参加して頂けるよう呼び掛けていく努力をしていきたい。</p>
63	<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p> <p>日常的に利用できるようにプライバシーに配慮して支援を行っています。</p>		
64	<p>○家族や馴染みの人の訪問支援</p> <p>家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。</p> <p>家族、友人、知人等の訪問は歓迎している。又、来客時は来客名簿に記入して頂いている。</p>	○	<p>再度来訪していただけるよう、本人との関わりをさり気なくサポートしていきたい。スタッフとの関係も大切に捉え、良好な環境作りに努めたい。</p>
(4)安心と安全を支える支援			
65	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p> <p>身体拘束に関する講習をスタッフが受け、身体拘束を行わない介護上の工夫を管理者とスタッフが相談しながら行っている。</p>	○	<p>スタッフの何気ない言動が拘束に繋がっていることもあるので、今後も身体拘束に関する講習等を積極的に受講すると共に、家族、同業者、関係機関等からの意向や助言を参考にし、特に精神的な心の拘束が発生しないよう努めたい。</p>
66	<p>○鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。</p> <p>玄関の入り口には開閉時チャイムを、廊下の入り口には風鈴を付け、目だけでなく耳でも確認出来るよう徹しているため、日中は施錠を行っていない。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
67 ○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	照明、ドアの開閉等に配慮し数名の方にはセンサーマットにて対応し転倒防止に努めている。		
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	注意の必要な物品は入居者の状態に合わせ、必要に応じて、手の届かない場所や鍵のかかる所へ保管している。	○	できることは、これまで通り行って頂きたいので、危険だからといって、全てを排除するのではなく、各入居者の状態に合わせて臨機応変に対応していく
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	ヒヤリハット報告書や事故報告書を記入し、ユニット毎にファイル化しており再発しないようユニット会議、全体会議を行いホームの学びとして情報の共有を図っている。		
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	各ユニットに緊急時マニュアルが置いてあり、直ぐに確認できるようになっている。普通救命講習会をスタッフが全員受講している。		
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	職員の意識啓発に努め、各災害に備え消防署指導の避難訓練も行っています。	○	今後も、地域の人々にも協力を得られるよう働きかけていきたい。
72 ○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	普段から状況を報告する事に努め、状況に変化があれば完全に安心して頂ける方法を家族と共に話し合っている。 下肢筋低下してきている人には足元の安全のため介護用靴を検討したり筋力低下防止のための理学療法士に定期的に来訪して頂いている。	○	個人の意見を尊重し、自由に暮らす事、拘束しない事には、リスクが伴います。これを家族には理解していただいています。状況によりこれからも話し合いを続けていきます。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	日中の入居者1人ひとりの状況や行動を把握し記録する事とスタッフが声を掛け合う事により変化の早期発見、対応が出来るように連携を取っている。	○	各スタッフの情報の捉え方に違いが発生しないよう、客観的な情報を、正確に伝えるよう努めていきたい。
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	職員は処方された薬の内容が記載された用紙を確認し、入居者が服用している薬の種類や内容副作用等を把握し指示通り服用できるよう支援している。薬の用法・用量を間違えぬよう、複数のスタッフでチェックし、入居者本人に手渡している。	○	薬の用法・用量は間違えられません。必ず複数のスタッフでチェックします。
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	24時間排泄チェックを行っているため、便秘の人に対して医師に相談し適度の運動をしますが、必要であれば薬を服用するよう支援しています。食物繊維を多く含む食材の提供、マッサージ等その時の状況に応じて取り組んでいる。		
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	食後の義歯洗浄や歯磨きやうがいにて口腔内の清潔を保ち義歯が合わなくなったりした時は家族に連絡し必要があれば歯科往診をして頂いている。	○	年に一度、外部からの研修を受けます。
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	個人のケア記録に栄養摂取量、水分量を記入している。又、必要に応じて医師、看護師のアドバイスを頂き適度な運動を行って支援している。		
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	インフルエンザ予防接種を入居者、スタッフ全員が受けており感染症に対してのマニュアルがあり実行している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	消費、賞味期限などの食品管理を行っている。 新鮮で安全な食材の活用 肉類や魚類は別冷蔵にしている 毎食後に消毒器具類の消毒を行い衛生管理に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	敷地に余裕があるので園芸や畑・花壇が設置されており、南に面にはバルコニーを広く確保しているのでベンチや日傘を設置し楽しんで頂いています。	○	バルコニーは道路に面しており、近隣住民と顔を合わす機会が多いので、失礼の無いよう対応すると共に、近隣住民と入居者との関わりも支援していく。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	共用の生活空間は和風の木造らしさを表しています。リビングや食堂には観葉植物を置き、皆さんの絵画作品や折り紙作品を展示したり昔懐かしい物を置き家庭的な雰囲気を出している。	○	展示物を季節によって変えるなどして、展示物と入居者をより近づける工夫をしていきたい。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	「陽だまりの場所」と呼んでいる廊下の突き当たりには各階2箇所ずつ、入居者が一人になったり気のあった入居者同士で自由に過ごせるよう居場所を確保している。		
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室にはご自分で使い慣れたタンスやテーブルを使用させて頂いています。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	昼夜とも快適な室温を心掛け、換気には十分配慮を行っている。	○	極端に寒がる方、暑がる方が混在しているので、湿度を上手く調整したり、衣類の変更をさりげなく勧めるなどして、皆にとって快適な環境を作っていく
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	床は全てバリアフリーになっており、廊下や浴室、トイレには手摺りを設置しています。洗面台は車椅子でも使用可能な仕様になっており、物干しは昇降式としています。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	利用者一人ひとりがどこまでわかるのか、どこまでできるのかを、職員は把握します。その上で混乱を招くような状況にならないよう支援しています。	○	混乱や失敗があったときは、無理やり納得させるのではなく、本人がゆっくり納得・理解できるように、わかりやすい言葉がけや雰囲気作りを大切にしている。
87	○建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	お天気の良い日にはベランダを広く取っているため車椅子でも出入りできるので昼食を取ったり、花に水撒き草取り等を行う活動を支援している。		

V. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<ul style="list-style-type: none"> ① 毎日ある ② 数日に1回程度ある ③ たまにある ④ ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ毎日のように ② 数日に1回程度 ③ たまに ④ ほとんどない

V. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
97	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。</p> <p>①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない</p>
98	<p>職員は、生き生きと働いている</p> <p>①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>
99	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>
100	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)

当事業所では、今まで暮らしていた自分の家の様に自由に気楽に暮らして頂きたいと思っております。しかし、どうしても自分の家とは違います。帰りたい思いでここで暮らしていることを理解し、支援していきたいと思えます。それには、自分がこのホームで暮らしていたとしたらどうなのかを常に考えて支援することです。つまり、その人の人生を振り返り、良く知ることによってこれからの人生に何が必要なのか、身体介護ばかりではなく、楽しみや生きがいを見出して暮らして頂きたいと思っております。そのために、なるべく地域との交流や社会参加を積極的に行っています。春になれば果物農園に出掛け、夏にはお祭りに参加し、秋には外食に出掛け、冬にはボランティアの方に来て頂いて、暮らしに変化をつけ気分転換していただいています。「このホームに来て本当に良かった。」と言っていただきたくて、頑張っております。